



## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

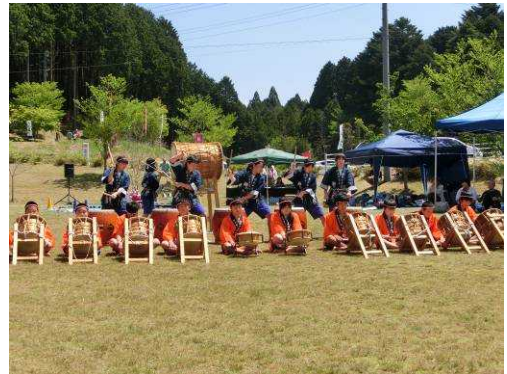
本校では、作手地区の自然や文化を愛し、将来作手地区に貢献できる生徒を目指して、近隣高校との連携型中高一貫教育に取り組んでいる。中高教員による「チームティーチング」(英語、数学)、高校教員による地域の山野草「サギソウ」の栽培などを行っている。「サギソウ」栽培では、高等学校のバイオテクノロジー技術を学び、3年間で「授粉」から「地域への定植」というプログラムを実施している。

外国語活動も重視し、毎週水曜日を「英語の日」とし、日常生活の会話ではできるだけ英語で行うようにしている。総合的な学習では、「地域」を題材とし、地場産業、福祉、地域の環境保全、歴史遺産の学習に取り組んでいる。

<5月>

○地域行事「古城まつり」への協力  
～和太鼓クラブの演奏～

作手地区には戦国時代の武将に関わる山城が多く存在している。それを舞台に、新城市内外の多くの人の参加を呼びかけ、地域活性化を図る取り組みの一つが「古城まつり」である。本校「和太鼓クラブ」、「弓道部」の生徒も参加し、地域の文化を発信するために協力している。



<6月>

○地域清掃活動「クリーンアップ作戦」

学校周辺の主要道路の清掃活動を行い、地域の環境美化に努めている。

○林業体験活動(1年生:総合的な学習)

作手地区は、古くからスギ、ヒノキの植林が進められ、林業が主要産業として位置付けられていた。本校も学校林を5ヶ所保有しており、1年生が学校林の間伐作業などの体験を行っている。当日は、県林務課の職員、地元の林業家、保護者の協力を得て、林業について講義、間伐作業、材木の運搬などを行い、林業についての理解を深めている。



<7~8月>

○湿原観察 ~総合的な学習「環境」~

作手地区の中央部は標高が550mあり、平均気温は12.5℃と低い。年間降水量が2,300mmときわめて多いことから夏季低温多雨という特殊な気象条件となっている。作手の湿原は典型的な中間湿原で、「サギソウ」「ハッコウトネボ」をはじめとする貴重な動植物の生息場所となっている。作



湿原を代表する植物  
サギソウ

手地区の中間湿原群は平成13年(2001年)10月11日に環境省の全国重要湿地500に選定された。

総合的な学習で「環境」を学習するグループは、湿原の春～秋の様子を観察し、文化祭で湿原の成り立ちや植物、昆虫などについて報告している。

#### ○地域との交流（地域理解）

自分たちが暮らす地域について知り、大切に思う気持ちを育むことが、国際理解につながるという考えから、「総合的な学習」を中心に地域と関わる活動を取り入れている。

- ・職場体験学習（2年生：総合的な学習）

キャリア教育とも関連づけ、地域のさまざまな事業所で職場体験をさせていただいている。

- ・市役所、福祉施設訪問（3年生：総合的な学習）

地域の課題をつかむため、市役所、老人介護施設、道の駅などを訪問し、聞き取り調査を行った。

#### <11月>

#### ○文化祭での情報発信（総合的な学習の成果発表、地域交流体験「絆講座」

- ・総合的な学習の成果発表

これまで学習してきた内容を地域の方、保護者をはじめとする多くの方々に報告した。1年生「林業」について、2年生「職場体験学習」について、3年生「地域振興についての提言」をテーマに発表を行った。市役所の方、地域の方から、「よく考えている」「地域のことを分かりやすく説明してくれた」などの感想も寄せられた。



「絆講座」開設講座

- ・地域交流体験「絆講座」

地域のさまざまな分野で活躍されている方を講師としてお呼びし、その方の持っている技能を学ぶことで、地域との絆を深めたいと考えている。また、保護者や地域の方にも参加を呼びかけ、本校の取り組みを外部に発信する場としている。講師については、地域の活性化を目指す団体「作手を考える会」に紹介していただき、5つの講座を開設した。

NO	内 容	
1	蒔 絵	漆と金銀の粉を使って蒔絵風の絵をかきます。
2	絵手紙	ジャンル自由で、はがきに絵手紙をかきます。
3	写 真	テーマをもとに写真を撮り、お互いに鑑賞し合います。
4	苔 球	根のまわりを土で包み、苔植物を貼りつけた苔球をつくります。
5	竹トンボ	ナイフを使って竹を加工し、竹トンボを制作します。

#### ○地域清掃活動「クリーンアップ作戦」

地域行事「つくで祭り」会場の清掃活動を行う。作手地区で最も大きな催し物で、地域の方も楽しみにしていると共に、遠方より参加される方も多い。来場された多くの方が、気持ちよく過ごすことができるように、生徒会が中心となり清掃活動を行っている。

#### ○地域行事「つくで祭り」への協力

～和太鼓クラブの演奏、赤十字募金活動協力、地域作品展参加～

特設ステージで、さまざまな催しが行われる中、和太鼓クラブの演奏を行った。また、地域福祉団体の要請に応じ、3年生が中心となって、赤十字募金を呼びかけた。別会場で行われる文化作品展には、作手地区の保育園、小学校、中学校、高等学校から生徒の作品が寄せられ展示された。



<3月>

○椎茸栽培実習（1年：総合的な学習）

豊かな山林を活用する取り組みの一つとして「椎茸栽培実習」を行っている。近隣の高等学校の協力も得て、椎茸の栽培方法の学習とほだ木に穴を開け、菌を打ち、収穫までを体験する。実際に収穫するには2年ほどの期間がかかり、自分たちが収穫して食べるというより、後輩達のために栽培している。



<3年間を通して>（中高連携によるサギソウ栽培活動）

本校は、近隣の高等学校と連携型中高一貫教育に取り組んでいる。高等学校教員が中学校の授業に参加、中学校教員が高等学校の授業に参加するほか、部活動、体育大会、文化祭、地域作品展での交流や、椎茸栽培、環境保全活動などでの交流を行っている。その中でも、中心的な取り組みとなっているのが、湿原の希少植物「サギソウ」の栽培活動である。

- ・1年次<交配、培地づくり、播種>
- ・2年次<移植>
- ・3年次<開花>

サギソウは発芽率が低く、その後の生育も環境の影響を大きく受け、限られた範囲でしか生育できない植物である。そこで、サギソウを増やすためには、人の手で環境を整え、効率的に栽培を行っていく必要がある。

1年次に広口瓶の中の培地にサギソウの種をまき、無菌状態で発芽から育苗までを行う。2年次には、数cmに育った苗をポットに移植し、一定の温度で生育させる。そして、3年次に開花を迎える。

生徒が一番緊張する作業は「播種」である。芥子粒のように小さなサギソウの種子を、広口瓶の中の培地に金耳という特殊な器具でまく。その後、広口瓶の口付近をバーナーで加熱殺菌、特殊なシートで密閉する。広口瓶の内部を無菌状態にしておかないと、雑菌が繁殖し、サギソウが成長しなくなってしまう。中学生にとってはなかなかレベルの高い作業で、生徒にとって興味深い体験となっている。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 夏休みなど、休業日を活用 ）